

ゴミの回収には、人力の他に重機類の導入を検討している。

a. ゴミ回収の優先順位

樋島海岸の調査と同様とする。

b. ゴミの回収に使用する重機類等

海岸での効率的なゴミ回収のため、不整地運搬車の導入を検討する。



不整地運搬車

c. ゴミの運搬方法

調査で回収されたゴミは、事業系一般廃棄物、産業廃棄物、特別管理産業廃棄物それぞれについて、許可業者により適切に運搬・処理する。具体的な運搬処理体制については調整中。

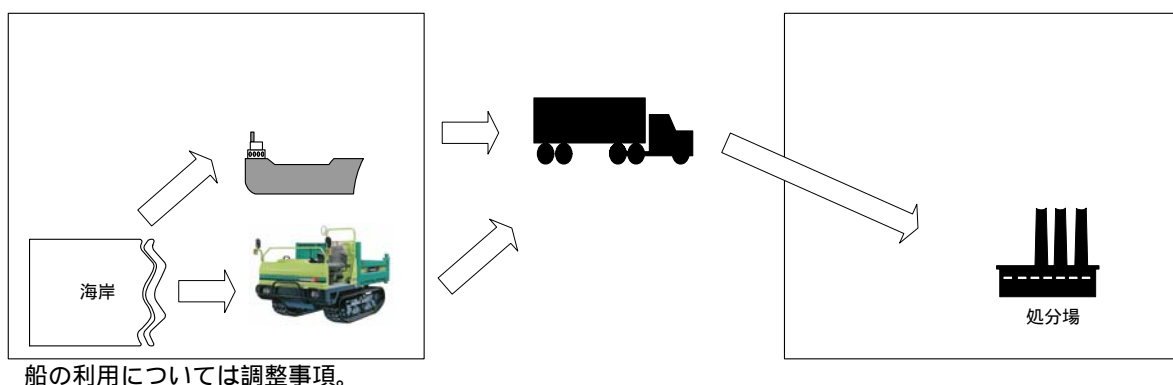


図 43 ゴミ運搬の模式図（熊本県天草郡苓北町 富岡海岸）

沖縄県

) 沖縄県石垣市 吉原海岸～米原海岸



図 44 調査範囲 (沖縄県石垣市 吉原海岸～米原海岸)



図 45 調査地点及び調査枠 (沖縄県石垣市 吉原海岸～米原海岸、緑色の4は岩浜の調査点)

原則として人力による回収を実施する。重機類は使用しない。

a. ゴミ回収の優先順位

調査時にゴミの量が多い、あるいは回収作業員が十分確保できず1回のクリーンアップ調査で全てのゴミを回収できないことが想定される場合には、回収の範囲やゴミの種類に優先順位を付けて回収する。優先順位は、回収し切れなかったゴミが共通調査の結果に影響を及ぼさないよう考慮し、ゴミの回収作業に次の ~ の優先順位を付ける。

表 5 回収範囲の優先順位（沖縄県石垣市 吉原海岸～米原海岸）

優先順位	回収対象	回収方法等
	共通調査の調査枠周辺	共通調査の枠の中にゴミが移動してこないように、調査枠の周辺にあるゴミを十分に回収する。
	調査範囲内の移動しやすいゴミ	以外の範囲で、移動しやすいゴミ（1人の人力で動かせる程度のゴミ）は、調査時間の残りを勘案しつつ調査範囲を決めて回収する。
	流れ込みや岩場などゴミが多くたまっている場所	2回目以降の調査において漂着ゴミの集積の程度を把握するため、流れ込みや岩場などゴミが多くたまっている場所から、調査時間の残りを勘案しつつ1～2箇所を選定し重点的にゴミを回収する。

b. ゴミの回収に使用する運搬機器等

アクセスの悪い（ゴミ運搬車両の進入可能場所から遠い）地点を対象に、使用可能な浜ではリヤカーの導入を予定している。また、不整地運搬車の導入の可否についても検討する予定。



図 46 リヤカー（左）と不整地運搬車（右）

c. ゴミの運搬方法

調査で回収されたゴミは、事業系一般廃棄物、産業廃棄物、特別管理産業廃棄物それぞれ許可運搬トラックにより適正な処分施設へ運搬する。

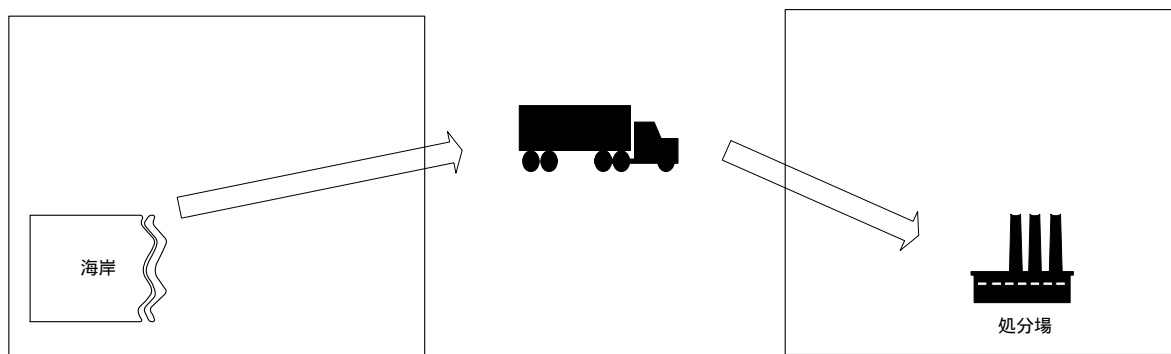


図 47 ゴミ運搬の模式図（沖縄県石垣市 吉原海岸～米原海岸）

沖縄県

) 沖縄県竹富町 住吉～星砂の浜～上原海岸（西表島）

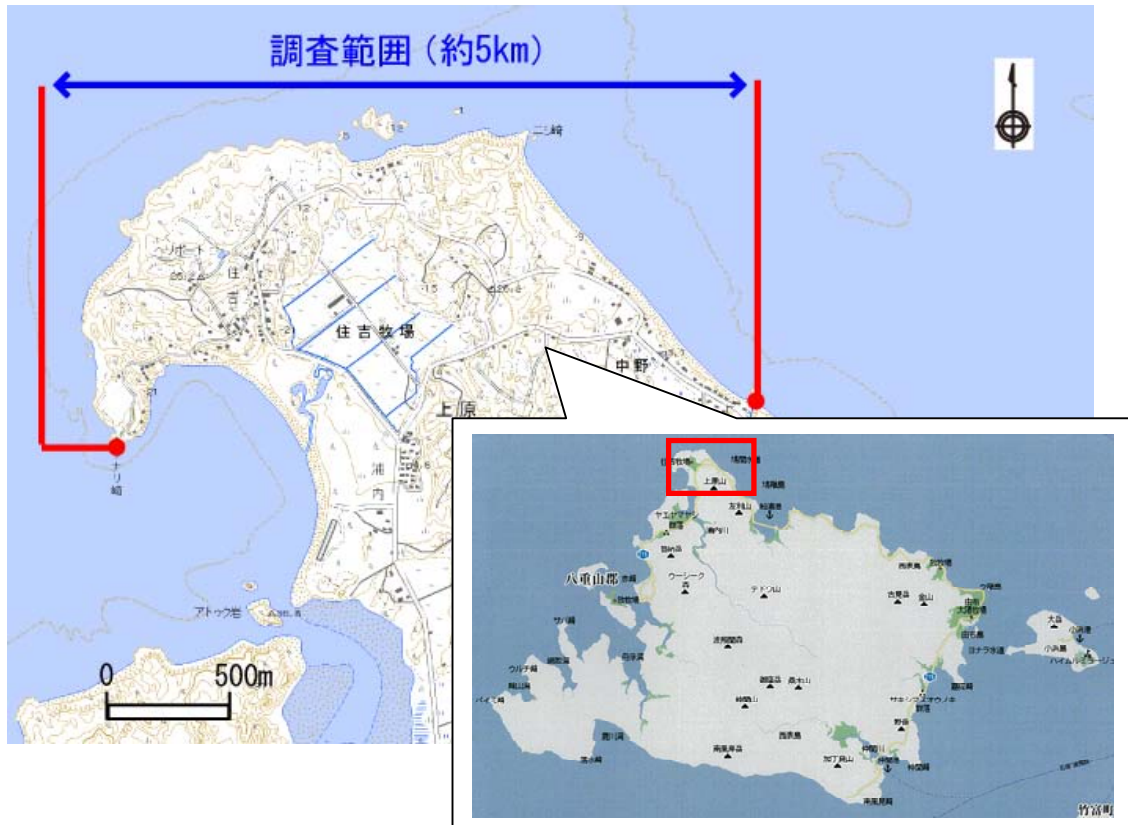


図 48 調査地域（竹富町 住吉～星砂の浜～上原海岸（西表島））

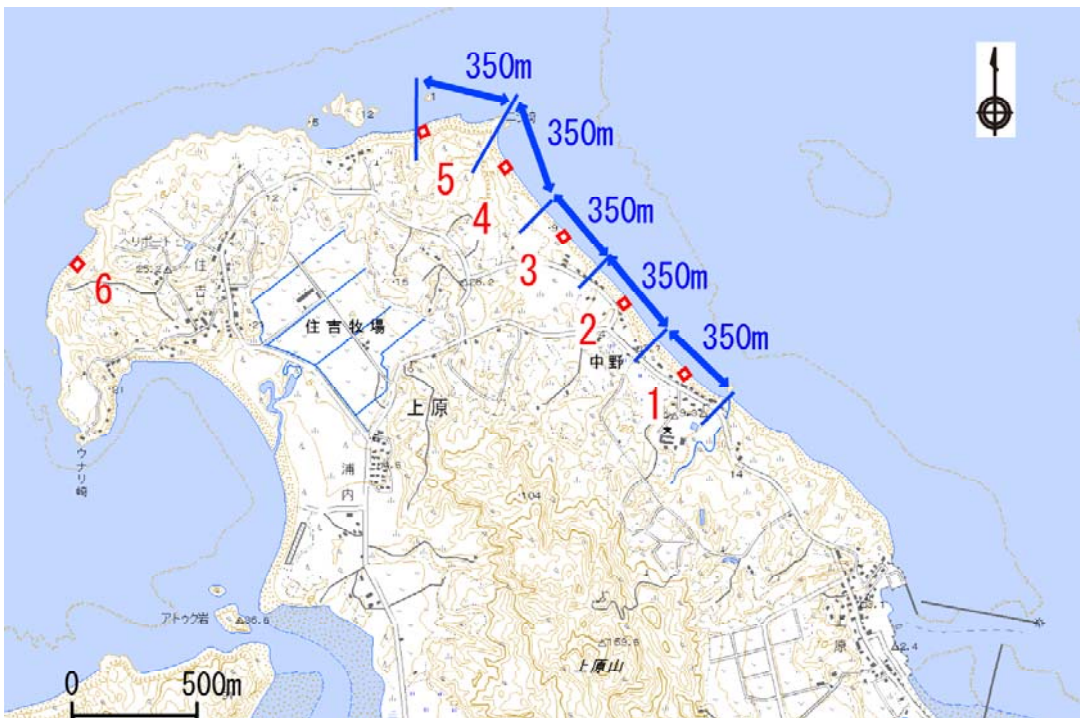


図 49 調査地点及び調査枠（竹富町 住吉～星砂の浜～上原海岸（西表島））

原則として人力による回収を実施する。重機類は使用しない。

a. ゴミ回収の優先順位

石垣島の調査と同様とする。

b. ゴミの回収に使用する運搬機器等

石垣島の調査と同様とする。

c. ゴミの運搬方法

調査で回収されたゴミのうち事業系一般廃棄物は島内の処分場へ、産業廃棄物及び特別管理産業廃棄物は許可運搬船により石垣島へ運び、石垣島で産業廃棄物取扱業者に引渡し適切に処理する。

なお、海上輸送のコスト削減のため、発泡スチロール溶融機の効果的かつ経済的な導入方法について検討する。

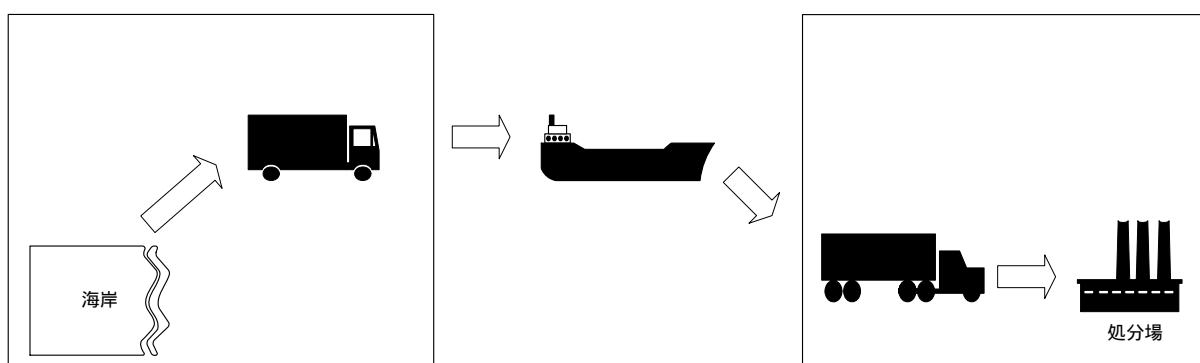


図 50 ゴミ運搬の模式図（竹富町 住吉～星砂の浜～上原海岸（西表島））



図 51 発泡スチロール溶融機

4. 調査結果取りまとめ

4.1 共通調査

各モデル地域の調査地点において、漂着ゴミの回収・分類を定期的に行うことで、分布状況の経時的変化の解析(フォローアップ調査で行う)に必要なデータである、漂着ゴミの種類別の個数、重量、容量を把握し、整理する。

4.2 各モデル地域における独自調査

各モデル地域に設定した調査範囲の清掃(クリーンアップ)を定期的に行うことで、清掃に必要となる人員、重機、前処理機械等について、各地域の実情に即した効果的かつ経済的な選定方法、手配方法等を検討する。